

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

① 第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

② 評価調査者研修修了番号

sk2021096

s2021052

神機構-1117

③ 施設名等

名称：	すまいる
施設長氏名：	小川 暁美
定員：	30名
所在地(都道府県)：	神奈川県
所在地(市町村以下)：	
T E L：	
U R L：	http://kanagawa-swc.com/smile/
【施設の概要】	
開設年月日	2014/9/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人神奈川県社会福祉事業団
職員数 常勤職員：	49名
職員数 非常勤職員：	2名
有資格職員の名称（ア）	心理療法担当職員
上記有資格職員の人数：	2名
有資格職員の名称（イ）	家庭支援専門相談員
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（ウ）	里親支援専門相談員
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（エ）	自立支援員、学習支援員
上記有資格職員の人数：	各1名
有資格職員の名称（オ）	被虐待児個別対応職員
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（カ）	地域コーディネーター
上記有資格職員の人数：	1名
施設設備の概要（ア）居室数：	5ユニット、ショートステイ1ユニット
施設設備の概要（イ）設備等：	プレイルーム、地域交流スペース、集会室、親子生活訓練室、
施設設備の概要（ウ）：	相談室、静養室、会議室、バルコニー
施設設備の概要（エ）：	

④ 理念・基本方針

<法人の経営理念>

- ・ 人にやさしい豊かな心
- ・ 地域社会への貢献
- ・ 活力ある経営

神奈川県社会福祉事業団は、人にやさしい豊かな心を持って、地域福祉の信頼ある担い手として、地域社会に貢献していきます。

また、みんなの笑顔があふれる福祉サービスの向上に努め、日々新たな気持ちで、活力ある経営を目指します。

<施設の運営方針>

児童のアイデンティティを求めて

私たちは入所した児童と共に

◇ 勇気＝変えていく勇気

◇ 冷静＝変わらないものを受け入れる冷静さ

◇ 知恵＝変えていけるものと変わらないものを見分ける力

これら三つの力を強化育成していきます。

私たちは入所してきた児童一人ひとりが、安全で安心できる可能な限り家庭的な生活を営むことができるよう、児童の生命と人権を守ります。

～養育目標～

♪ 心身ともに健康な人に

♪ 意欲のある人に

♪ 相手を思いやり、自分を大切にできる人に

♪ 社会のために役立つ人に

⑤ 施設の特徴的な取組

○ユニット内では、子どもの担当は決めず、全職員が一人ひとりの子どもを把握している。なぜここにいるのかなど疑問が出た時、どの職員に話しても相談に乗ってもらえるメリットがある。職員は子どもの状態を見ながら、声をかけて悩みを聴いている。子どもに課題が発生した時は、特定の職員ではなく、職員全体と一緒に考え、解決策を検討している。

○地域の子育て支援として、ショートステイやデイスティの子育て短期利用事業を積極的に実施している。地域の子育て支援の需要は多く、市の保健師が地域の見守りを行っている。すまいるのショートステイは、土、日だけでも預かってほしいという希望がある。地域の子育て支援として、今後、ショートステイやデイスティの受け入れを増やしていくことを市と検討している。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2024/5/1
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2025/2/10
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和3年度（和暦）

⑦総評

○児童養護施設すまいるは、児童養護施設、保育園、地域の子育て支援、地域交流の4つの機能を持つ「総合児童福祉施設あいせん」の2～5階にある。子どもたちの居住スペースは3～5階で、5つのユニットに分かれて生活を送っている。また、ショートステイのユニットもあり、小規模児童養護施設ひまわりの運営にも携わっている。

○1ユニットに6人の子どもが生活している。建物の清掃は業者に依頼し、幼児以外の各居室は各自が掃除している。居室は個室で、子どもたちは自分の好きなぬいぐるみを置き、ポスターなどを貼り、自分らしい居心地の良い空間を作っている。リビングはコミュニケーションや遊びの場であり、テレビを見たり、ゲームをしたり、宿題をやったりしている。

○子どもたちが話し合い、考える場として、「子ども会議」をユニットごとに行っている。外出したい、ユニット調理をしたいなど、子どもたちが話し合い、計画を立て実行している。また、ユニット内のルールなどを話し合いで決めている。学校の宿題や、忘れ物がないかなど、自分で準備していくように個人のチェック表を作り部屋に貼っている。毎朝、自分で確認し、職員にも確認してもらっている。

○卒園するまでに、一人での生活ができるよう、最低限の生活技術を身につけるよう支援している。高校生は企業からホテルの食事の招待があり、コース料理の食べ方やマナーを学んでいる。炊飯器や洗濯機などの使い方は、子ども同士で教え合ったりしている。リービングケア・アフターケア委員会を中心に計画を立て、水道代などの支払い方、冠婚葬祭の時の対応など、具体的なことを教え、自立した後に困らないようにしている。

○食事は、同一建物内の保育所と一緒に、厨房で作り、温かいうちに各階にダムウエーター（小荷物専用昇降機）で運ばれてくる。月2回ユニット調理日があり、子どもの希望する食事を、買物から調理まで行って楽しんでいる。ハンバーグやから揚げなどが人気がある。子どもたちは寂しいから寝付くまで居室のドアを開けていたり、幼児は寝付くまで職員が本を読んだりしている。特に低学年の子どもには個別時間を作って、本の読み聞かせをしたりして、安心して入眠できるよう支援している。

○子どもの表情を見て、曇った表情をしている時などは何かあったのかを聴き、心配事など一緒に考えている。また、手が出してしまった時には、まずは他の子どもの安全を確保している。本人の興奮が収まるのを待ち、空いている部屋で、どんな気持ちだったのかを聴いている。行動の背景にある感情を聴き取り、その感情を受容し、どうコントロールしていくか一緒に考えている。

○常勤の公認心理師を2名配置している。子どもたちには、個々に曜日や時間を決めプレイセラピーなどを行い、子どもたちがどのような気持ちでいるのか確認している。心理室には、ボールプールなどがあり、その中での行動から家ではどのような状態で生活している、どのような行動が見られたかなど、子どもの今の気持ちを理解するようにしている。困難事例も多く、月1回、市内児童福祉施設の心理士のスーパーバイズを受けている。

○中学生になると、将来について職員と話し合うことが多くなる。どんな仕事につきたいか、そのためにはどのような勉強が必要かなど、職員からの情報やアドバイスを受け、高校や大学、就職など、自分で目標を立てて生活している。現在は、高校受験を希望し塾に通っている子どもや、大学を希望している子どもたちが、目標に向かって生活を送っている。就職希望者は、企業での体験を通じて、自分の将来を決めている。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

開所10年を迎え、日々子どもたちの最善の利益のためより良い支援に努めてまいりました。今回の第三者評価において、施設の課題について改めて見つめなおす機会となり、とても有意義なものになりました。評価していただいた部分をさらに強化してまいりたいと思います。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a

<input type="checkbox"/>	理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

法人の経営理念は、ホームページやパンフレットに掲載するとともに、事務室や会議室などにも掲示している。また、毎日行う朝会議では、経営理念を唱和している。年度初めの職員会議では、事業計画の説明の際に、所長より法人の理念についても触れている。子どもや保護者には、入所前の施設見学時に、パンフレットを渡している。子どもたちには、所長との面接の場面などに、理念についても話をするようにしている。

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果	
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	
<input type="checkbox"/>	社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

月1回、法人全体の経営会議があり、所長が出席して、各施設の運営状況を把握する他、社会福祉事業全体の動向についても確認するようにしている。市内には4ヶ所の児童養護施設があり、施設長会議に所長が出席している。入手した情報のうち、職員に必要な情報は、職員会議や朝会議の中で、所長から職員へ報告している。経営状況などの把握や分析は、法人と連携して取り組んでいる。

② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a	
<input type="checkbox"/>	経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

国や市の動向に注視して、地域小規模児童養護施設の取り組みなどに着手している。収支のバランスは法人全体の問題でもあるので、法人との連携を密に取るようにしている。職員には、職員会議や朝会議で、説明、周知している。市の助成金により、国の基準より厚い職員配置が取れており、子どもと向き合う時間も多く、職員の人数で課題となる点は特に上がっていない。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
① 4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a

<input type="checkbox"/>	中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
<input type="checkbox"/>	中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
<input type="checkbox"/>	中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
<input type="checkbox"/>	中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○

【コメント】

法人全体で、第5次総合経営計画を策定している。総合経営計画は、5ヶ年計画で、ホームページに掲載している。計画は分野ごとにまとめ、児童養護施設に関する部分は、計画作りの段階で、所長や児童支援課長が意見を述べている。現在の計画は、令和5年度から9年度の計画で、法人の経営会議で内容の説明があり、職員会議などで、職員全体に周知して、共有している。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
<input type="checkbox"/>	単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
<input type="checkbox"/>	単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
<input type="checkbox"/>	単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
<input type="checkbox"/>	単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○

【コメント】

法人の中・長期計画である第5次総合経営計画を踏まえて、単年度の事業計画を策定している。事業計画に、「重点事項」として、①児童の安全・安心な生活のために計画的な予算執行に努める、②児童が意見表明しやすい環境整備と意見の反映、児童の権利の尊重、③地域ニーズの把握と課題解消・虐待予防に向けた取り組み、公益事業の計画的実践を掲げ、具体的な計画を策定している。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
<input type="checkbox"/>	事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
<input type="checkbox"/>	計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
<input type="checkbox"/>	事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
<input type="checkbox"/>	評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
<input type="checkbox"/>	事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

各部署から職員の声を吸い上げて、所長や管理課長、児童支援課長、担当課長など管理職で事業計画の取りまとめを行っている。作成した事業計画は、3月の理事会に諮っている。事業計画は、年度初めの職員会議で職員に説明して、周知、共有を図っている。事業計画は、作成から評価(報告書作成)までを、1サイクルとして取り組んでいる。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	c
<input type="checkbox"/>	事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	
<input type="checkbox"/>	事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
<input type="checkbox"/>	事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
<input type="checkbox"/>	事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

子どもの入所時に同行した際には、保護者に計画に即した内容を説明しているが、特に資料などは用意していない。家族の面会の際は、日頃の子どもの様子を報告することが中心になるが、行事などの案内もしていきたいと考えている。子どもたちへは、子ども会議や必要時、各ユニットで内容を伝えたり、行事のポスターを階段のスペースに貼って案内したりしているが、事業計画書そのものを提示しての説明は行っていない。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
① 8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的を受審している。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

【コメント】

毎日の朝会議や月1回開催する職員会議の他、リーダーサブリーダー会議やユニット会議を定期的で開催して、養育・支援の質の向上に向けた取り組みを組織的にしている。また、行事委員会、リビングケア・アフターケア委員会、すまいるの生活委員会、広報委員会の4つの委員会を中心にして、養育・支援の質の向上に努めている。委員会の取り組み内容は、職員会議で報告して、共有している。事業内容は、年度末に評価して事業報告書にまとめ、次年度につなげている。常にPDCAサイクルを意識して、養育・支援にあたっている。

② 9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

【コメント】

評価結果をまとめたものを会議などで共有し、必要な改善を検討し取り組んでいる。子どもの支援につながることで、対応に苦慮していることは、ユニット会議に専門職にも入ってもらい、検討内容が妥当かどうか、アドバイスを受けている。保護者との関係では、保護者とのコンタクトをどう取っていくか、施設の運営方針や運営状況をどう伝えたらよいかなどを話し合っている。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

管理職を含め一人ひとりの職員が何を担当するか、事務分担表に記載している。担当は必ず補助する人も決め、一人で担当しないように留意している。朝会議や職員会議には、所長が出席して、会議の冒頭で所長が話す時間を設けている。リーダーサブリーダー会議や専門職会議にも、所長が出席している。年3～4回、広報誌「すまいる」を発行し、冒頭の挨拶文は、管理職が交替で執筆している。広報誌「すまいる」は、市や地域の学校、児童相談所、町内会、県内の児童養護施設や乳児院、お世話になっている個人や団体などに、広く配布している。所長不在時の権限は、子どもに関することは児童支援課長、金銭的なことは管理課長に委譲することになっている。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

遵守すべき法令などを正しく理解するため、研修や自己研鑽を通して、必要事項の把握、理解に努めている。県や市の施設長会に参加する他、人権研修も受講している。入手した情報のうち職員に必要と思われるものは職員会議などで説明し、資料を回覧したり、コピーして配布している。年1回、職員の倫理綱領の読み合わせを行い、4月には、「すまいる職員の心がまえ」の確認を行っている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

年1回、非常勤の職員を含む職員全員と面接し、職員の声や希望を確認している。また、毎朝、挨拶時の声のトーンなどで職員の状態を把握し、気になる職員には、所長から声かけしている。職員にはいつでも相談にのることを伝えている。子どもたちにも、いつでも話をしたい時に来てほしいことを話し、所長室を開放している。所長室には、子どもたちが遊びに来ることも多い。また、食育の一環として、行事委員会が田んぼを活用した米作り体験を企画している。子どもたちと職員が田植えから草取り、稲刈りまでを行っている。収穫祭では、所長が中心になり、収穫したお米などでおにぎりや芋煮を作って、皆で楽しんでいる。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

月1回の法人の経営会議には、所長が出席して、経営状況の報告を行っている。児童担当の常務理事には、日々、問題が起きた時は報告し、改善に努めている。また、新規事業の相談もしている。法人内では、児童養護施設はひとつだけなので、経営会議などを通して、法人に事業内容を理解してもらうよう働きかけている。法人と連携を取り、経営の改善や業務の実効性を高める取り組みを行っている。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【コメント】

職員の採用は法人が担当しているが、採用時面接や施設見学の際には、必ず所長が同席している。現在、職員の採用に関しては、大きな問題は発生していない。職員の定着に向けて、計画的に職員研修を実施している。Zoomでの研修になるが、法人で階層別研修を行っている。外部研修は参加者が偏らないよう配慮しながら、児童支援課長が参加者を決めている。内部研修は、2ヶ月に1回程度、研修担当が企画して実施している。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○

【コメント】

期待する職員像は、特に文書化はしていないが、子どもたちの肯定感を高められるような支援ができる職員、プラスの言葉掛けができる職員、日々前向きに仕事ができる職員であってほしいことを、所長の思いとして職員に話をしている。毎年、重点課題に対して、職員が目標を立て、リーダークラスが職員との面接を行っている。所長との定期面接も実施して、職員の意向について、把握に努めている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○

	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	<input type="radio"/>
--	--	-----------------------

【コメント】

働きやすい環境作りとして、職員が互いに助け合うような雰囲気作りに心掛けている。今年度は、男性職員も育児休暇を取得している。勤務シフトはユニットリーダーが組んでいるが、作成にあたっては職員の休みの希望も聞いている。年1回、夏過ぎには、職員のメンタルチェックも行っている。日々の関わりや定期面接などの中で、職員の状況について把握し、必要な助言や指導を行っている。普段の様子を気を付けて確認し、職員に声掛けしている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

例年、計画的に職員面接を実施し、目標の共有を行っているが、今年度はすべての職員との面接は思うように進んでいない。職員一人ひとりの目標は、事業計画の重点課題に沿って設定してもらっているので、大きなブレはない。すべての職員との面接ができていないこと、また、職員一人ひとりの目標管理シートができていないことなど、課題もある。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

新任職員研修や新任職員フォローアップ研修は法人が担っている。また、階層別の研修も法人が担当している。外部研修にも積極的に参加し、研修のテーマと職員の状況を見て、児童支援課長が参加者を決めている。内部研修は、2ヶ月に1回程度、研修担当が企画して実施している。新任職員は、入職後1週間は新任職員研修を受け、それからはユニットや施設全体でOJTによる教育を提供している。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	<input type="radio"/>

【コメント】

外部研修には、職員ができるだけ参加できるよう調整している。外部研修参加後は、リアクションペーパーを提出し、職員会議で研修報告を行い、職員間で内容を共有している。また、支援が難しい子どもや、発達に支援が必要な子どもが増えていることから、月1回、市内児童福祉施設に、スーパーバイザーの派遣を依頼して、アドバイスを受けている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

児童支援課長を担当とし、保育士や社会福祉士を目指す実習生の受け入れを行っている。実習生の受け入れは毎月あり、2人同時に受け入れている時もある。ユニットの職員は記録などもあって大変だが、育成の役割を理解し、自分たちも通ってきた道として、受け入れに協力している。実習から就職につながることもあり、今後も受け入れの体制を確認しながら、実習生の受け入れを継続していく予定である。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	第三者 評価結果 a
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

法人のホームページに、事業報告書や決算報告書、運営の状況などを掲載して、運営の透明性を確保するための情報を公開している。施設の理解を深めるため、すまいるの記事については、こまめに更新している。年3~4回、広報誌「すまいる」を発行し、市や地域の学校、児童相談所、町内会、県内の児童養護施設や乳児院、お世話になっている個人や団体などに、広く配布している。1階の児童家庭支援センターの案内が多いが、町内会の掲示板も活用している。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

法人と連携し、事務分担を確認しながら、透明性の高い運営に取り組んでいる。そのため、事務分担表にて、ルールや職員の役割を明確にして、職員に示している。また、外部の監査法人が入って、毎月、試算表を定期的にチェックして、運営状況を確認している。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
<p>① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。</p> <p>(児童養護施設)</p> <p><input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】	
<p>町内会に入会して、小学生が中心になるが、運動会やバス旅行などの町内会行事や子ども会行事に、積極的に参加している。職員も親代わりとして、子どもたちに付き添っている。サッカーが好きな子どもは、地域のクラブチームに入っている。学校の友だちの訪問は、ユニット内に入るのは遠慮してもらっているので、子どもたちは近くの公園で一緒に遊んだり、逆に友だちの家を訪問したりしている。施設ができて10年が経過し、地域の方々とは、子どもたちが自然に挨拶を交わしている。開設前の2年間、職員が地域の小・中学校のボランティア活動を行っていたことから、学校との関係も良好である。</p>	
<p>② 24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。</p> <p><input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】	
<p>広報委員会が窓口となり、ボランティアの受け入れを行っている。行政や社会福祉協議会などを通じて、ボランティアの問い合わせは多いが、ボランティアの意向と施設の状況を確認しながら、受け入れを行っている。コロナ禍で学習ボランティアの活動が止まっており、現在はアートトラック（工作・飾り物）の訪問やお菓子作り、七五三の着付けと写真撮影など、単発のボランティアの受け入れが多い。学習ボランティアの受け入れ再開は、検討中である。</p>	
(2) 関係機関との連携が確保されている。	
<p>① 25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】	

地域の関係団体とは、児童家庭支援センターが幅広く、密に連携を取っている。児童相談所や学校とは、必要に応じて、連絡会を開催して連携している。年1回、施設の運営推進会議を開催していたが、コロナ禍で開催が途切れているため、再開しなければいけないと考えている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	○

【コメント】

地域の課題把握に努めているが、実際の活動にはなかなかつながらないことが多い。地域には、高齢者が多く、外国人の居住も増えてきている。施設で生活している子どもたちの養育・支援が中心になるが、小さいことでもいいので、何かできたらと考えている。父子家庭の親子への支援や、不登校の子ども居場所作りなどに関わることができたらと思っている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【コメント】

地域の福祉ニーズに対して、ショートステイやデイステイの事業に取り組んでいる。1階の児童家庭支援センターと連携し、お祭りにブースを出したりしている。地域の中で、小規模児童養護施設を増やしていき、その中で職員と話し合っ、できることを考えていきたい。また、地域には高齢者が多いことから、災害発生時の支援にも取り組んでいきたいと考えている。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。

第三者
評価結果

①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

安心・安全な暮らしや子どもの権利の尊重に力を入れている。新採用職員や実習生に、「すまいる職員の心がまえ」で、子どもたちに配慮した姿勢などを説明している。また、月1回開催する職員会議で読み合わせをして再確認している。今年度より、市内児童福祉施設からスーパーバイザーを招いて研修を行い、アドバイスを受けて支援の参考になっている。スーパーバイザーの活用は効果があり、成果も上がっている。

②	29	子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
		<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
		<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○
		<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	○
		<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	○

【コメント】

子どものプライバシー保護については、子どもたちに「紙芝居」や「すまいるのしおり」などで、生活の約束事を理解しやすいよう工夫して伝えている。子どもたちには、自分の情報を外で話して危険な状態を作らないよう説明している。子どもたちには、他人を自分の部屋に入れないこと、他の子どもの部屋に入らないことを説明している。部屋の施錠は不適切な行為につながる懸念があるため行っていないが、高学年の子どもは、プライバシー保護の観点からは、施錠したほうがいいと思うこともある。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30	子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
		<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
		<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
		<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
		<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
		<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【コメント】

施設紹介の資料としてリーフレットを用意している。また、ユニットの写真を用いて、説明を行っている。見学時には、保護者や入所予定の子どもや保護者等の緊張を和らげるよう配慮しながら、丁寧に説明している。ホームページにも、施設の概要や基本方針、運営方針、養育目標を掲載し、日々の活動やお知らせは随時更新して、最新の情報を提供するよう努めている。

②	31	養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
		<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
		<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
		<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
		<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

子どもたちは、児童相談所を経由して入所に至っている。措置決定通知書で、内容を確認して対応している。入後の養育・支援については、子どもの年齢に合わせて丁寧に説明している。子どもからの質問に対しては、不安にならないよう、適切に返答するよう配慮している。子どもの進路や交流などについても、本人の意向を含めて自立支援計画書に記載し、児童相談所とも内容を共有している。

③	32	養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
---	----	---	---

<input type="checkbox"/>	養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	<input type="radio"/>

【コメント】

家庭復帰や措置変更時には、子どもの状況に応じて、家庭や施設に生活の様子を説明している。家庭復帰に向けては、まずは外出から始め、短期外泊、長期外泊の段階を踏んで、環境の変化に慣れることができるよう配慮している。また、子どもたちは、親子生活訓練室を使い、一人暮らしの体験をして、退所に向けた準備をしている。退所後の連絡は、主に児童相談所が担っているが、所属していたユニットの職員が引き続き担当になり、施設の行事案内を送ったり、継続支援を行っている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

年1回、「子ども行動チェックリスト」により、アンケート調査を実施している。また、各ユニットで、子ども会議の開催を計画しているが、ユニットの子どもの年齢の幅も広く、アルバイトや部活で時間の調整も難しいため、どうしても子ども会議が開催できない時がある。子どもたちの意見や不満は、普段の生活の中で、できるだけ吸い上げていくようにし、早期対応に心掛け、子どもたちにストレスが溜まらないよう配慮している。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

入所時に、すまいるのしおりで、苦情解決の仕組みを説明して、子どもたちや保護者に周知している。1階に鍵の付いた意見箱を設置し、所長が管理している。投書があった時は、内容に合わせて職員を選んで、対象の子どもにヒアリングを行っている。子どもたちからは、「小遣いの額」や「ユニット内でのいじめ」などの投書があるが、今のところはスムーズに解決している。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
---	---------------------------------------	---

	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもたちが日常的に利用する玄関わきに、第三者委員名と連絡先を掲示している。日頃より、職員に気軽に相談できる環境づくりに心掛けていることから、子どもたちは、職員に直接相談してくることが多い。苦情の内容は、プライバシーに配慮しながら職員間で共有して、対策や対応に取り組んでいる。子どもたちからの話は、安心して話すことができるよう面接室や心理室、親子生活訓練室なども活用して聴いている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

意見箱に子どもからの相談や意見があった場合は、責任者と担当者が内容を共有し、速やかに安心できる環境で子どもと面接を行っている。心理士などの専門職とも連携して、対応している。対応はマニュアル化しており、職員全体で共有している。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

月1～2回開催する生活委員会が、事故対応と安全確保についてのマニュアルを作成し、事務室に置いている。マニュアルは、パソコン内でも共有できるようにしている。ヒヤリハット報告に関しても、内容を集約して、再発防止に取り組んでいる。子ども同士が安全に生活できるよう、「暴力対応マニュアル」を作成している。今年度、警察署の協力を仰ぎ、不審者対策の研修会の開催を予定している。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	<input type="checkbox"/>

<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

感染症の予防、発生時の対応は、マニュアルを整備している。感染症が発生した場合は、手順に従って対応することを、職員に周知している。感染者を隔離する場合には、デイスティの部屋を使用することもある。日常の感染症対策としては、玄関入り口に、アルコール消毒液を置き、帰宅後の手洗い・うがいを徹底するよう指導している。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

月1回、いろいろなパターンを想定して、防災訓練を実施している。ユニット職員主導で、夜間想定訓練を、年に2～3回実施している。夜間の災害時は、宿直リーダーが指示を出すことになっているが、経験の違いもあるので、リーダーが同レベルになるのが今後の課題である。施設の立地が浸水想定区域にあるため、備蓄品は5階に保管している。備蓄品は管理課が管理している。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果	
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもの対応、支援方針や方法については、自立支援計画に基づいて共有している。また、個別の支援対応は、パソコンで記録を共有して、対応にずれが生じないように工夫している。ユニットの職員全体で共有して、統一した養育・支援を行っている。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

月1回、ユニット会議やフロア会議を定期的に行い、子どもたちの支援方針や内容について、協議している。会議には、可能な限り専門職も同席し、自立支援計画の支援方法について意見交換を行っている。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

今年度、自立支援計画の作成時には、各ユニットの職員が個室にて子どもの意向を確認し、自己理解や意識付けの取り組みを行っている。5～6月に自立支援計画を作成し、11～12月に中間評価を、2～3月に総合評価を行い、次年度につなげている。支援が難しい子どもについては、児童相談所や専門職の意見を取り入れ、自立支援計画を作成している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

5～6月に自立支援計画を作成し、11～12月に中間評価を、2～3月に総合評価を行い、次年度につなげている。支援が難しい子どもについては、児童相談所や専門職の意見を取り入れ、自立支援計画を作成している。自立支援計画は、職員全体で共有し周知しているが、計画を緊急に変更する仕組みについては、整備が不十分なところがあり、今後の課題としている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

子どもの養育・支援の実施状況は、ユニット毎に記録し、パソコン内で職員全員が共有している。養育・支援内容と自立支援計画とを毎回照らし合わせるのが難しいため、パソコン内での環境設定が課題である。記録の取り方については、定期的に研修を行っている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

「すまいる職員の心がまえ」に、個人情報保護の規程や対応を記載し、月1回定期的に開催する職員会議で、読み合わせをして再確認している。職員が使用しているパソコンは、毎日使用後に自動ロックし、セキュリティを保つようにしている。記録管理の責任者を置き、文書類のファイルは、2階事務室で管理、保管し、情報漏洩のないように努めている。

内容評価基準（24項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護		第三者 評価結果
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

権利擁護に関するマニュアルを整備している。子どもの権利擁護は、児童養護施設の支援の基本であるため、月1回の職員会議では一部読み合わせを行っており、職員全員が意識しながら支援にあたっている。マニュアルは、事務室の目の届くところに置いている。また、施設内の権利擁護委員会が中心になり、昔あった事例から、このような関わり方をしていった結果、今はこうなったなど、事例を通しての研修を行っている。

(2) 権利について理解を促す取組

①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	<input type="checkbox"/>

年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。

【コメント】

入所の際は、児童相談所のケースワーカーから、「権利ノート」の説明がある。ほとんどの子どもは、年齢が低い時期に、入所することが多い。そのため、ユニットの中で、「思っていることを言っていんだよ」など、権利を伝えるようにしている。また、ほかの子どもにしていいこと、悪いことなど、具体的に生活の中で理解してもらっている。中・高校生には権利擁護について話をする機会を設けたり、外部講師を招いて研修を行ったりして、自分の権利や他者の権利について意識を持ってもらっている。入所時には「すまいるのしおり」を、小学生版、中学生版、高校生版と用意して、分かりやすく説明している。それぞれ、どの職員も同じように説明ができるようにしている。

(3) 生い立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生い立ちを振り返る取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生い立ちの整理に繋がっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

ユニット内では、子どもの担当は決めず、全職員が一人ひとりの子どもを把握している。なぜここにいるのかなど疑問が出た時、どの職員に話しても相談に乗ってもらえるメリットがある。職員は子どもの状態を見ながら、声をかけて悩みを聴いている。小学生くらいになると、ここで生活をしていることを理解しているか、子どもの話の中から確認している。正しい理解が、時がたつにつれ変わってしまうことがあり、ここに来た理由については時々確認している。家での生活や「すまいる」に来てからの生活をアルバムに残し、時々昔の話をして一緒に振り返っている。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもとの関わり方については、マニュアルを整備し、就業規則にも記している。それらをもとに支援を行っており、不適切な関わりはない。職員は研修や勉強会で、具体的な事例を通して対応の仕方を検討している。また、子どもたちに嫌なことがあった時には、職員に話をしたり、意見箱に投書できることを伝えている。意見箱は所長が管理しているが、子ども同士の関わりの内容が多い。不適切な関わり防止のため、学習はできるだけリビングで行ったり、自室で行う場合は個室のドアを少し開けておくなど、職員と子どもが密室にならないよう配慮している。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	A5 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

児童相談所から入所依頼があると、児童相談所のケースワーカー、所長、課長、ユニット職員などで検討会を行っている。次にユニットリーダーが一時保護所や乳児院に行き、子どもと面接し、子どもに見学に来てもらい、生活の様子を見てもらっている。本人が入所を納得し引っ越しの日が決まると、ユニットではその子どもの好きなウエルカムメニューを用意して、ユニット全体で迎え入れ、少しでも不安が軽減できるようにしている。家庭復帰や他施設への移行、卒園する場合は、子どもと連絡を取り合い、相談を受けている。

②	A6 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○	

【コメント】

月1回以上、リービングケア・アフターケア委員会を開催している。中学生は相談しながら、受験に向けての年間計画を立て、目標に向かって生活している。高校生の大学受験も同様である。退園した子どもには、関わりの深かった職員2名が、定期的な連絡や相談、パソナ自立支援事業(退所後の生活や就労支援のサポート事業)や生活保護の手続き、再就職の支援などを行っている。誕生日には担当者から電話を入れ、一緒に食事をしながら近況を聴いている。また、すまいるで収穫したお米や缶詰などを、卒園した子どもに持たせている。コロナ禍で、同窓会は行われていないが、入所している子どもたちとの交流の機会は持っている。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本

①	A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかりと受け止めている。	a
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起きているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○

【コメント】

第三者
評価結果

子どもの表情を見て、曇った表情をしている時などは何かあったのかを聴き、心配事など一緒に考えている。また、手が出してしまった時には、まずは他の子どもの安全を確保している。本人の興奮が収まるのを待ち、空いている部屋で、どんな気持ちだったのかを聴いている。行動の背景にある感情を聴き取り、その感情を受容し、どうコントロールしていくか一緒に考えている。落ち着かない日が続く、対応しきれない時には、心理士に相談して関わってもらっている。午後1時からの引継ぎの時間に、対応の仕方を検討している。自立支援計画についても、随時、対応方法を確認し、検討を重ねて修正して、子どもの心に寄り添うよう工夫している。

②	A8 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	○

【コメント】

食事は、同一建物内の保育所と一緒に、厨房で作り、温かいうちに各階にダムウエーターで運ばれてくる。月2回ユニット調理日があり、子どもの希望する食事を、買物から調理まで行って楽しんでいる。ハンバーグやから揚げなどが人気がある。子どもたちは寂しいから寝付くまで居室のドアを開けていたり、幼児は寝付くまで職員が本を読んだりしている。特に低学年の子どもには個別時間を作って、本の読み聞かせをしたりして、安心して入眠できるように支援している。

③	A9 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切に、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○

【コメント】

子どもたちが話し合い、考える場として、「子ども会議」をユニットごとに行っている。外出したい、ユニット調理をしたいなど、子どもたちが話し合い、計画を立て実行している。また、ユニット内のルールなどを話し合いで決めている。学校の宿題や、忘れ物がないかなど、自分で準備していくように個人のチェック表を作り部屋に貼っている。毎朝、自分で確認し、職員にも確認してもらっている。子どもが失敗した時には、何が失敗の原因だったかを一緒に考えている。また、幼児との関わりでは、自分でやりたい気持ちがもてた時には、頑張っている姿を応援し、できた時には一緒に喜び、褒めるようにしている。

④	A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちのニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○

<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が充分に活用されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

近隣の幼稚園に通園している子どもが6人、中学生で受験に向けて塾に通っている子どもが3人いる。高校生で大学進学を希望している子どもは、過去問の勉強をしたり、それぞれが目標に向かって学習している。本人の希望で、ダンスやスイミングに通っている子どももおり、ダンスの発表会などに向け、練習をしている。地元の野球やサッカークラブに入り、頑張っている小学生も多い。中・高校生は、バドミントンや卓球、サッカーなどの部活に打ち込んでいる。ほとんどの子どもは毎日忙しく、休みの日はゆっくり過ごしている。

⑤	A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

卒園するまでに、一人での生活ができるよう、最低限の生活技術を身につけるよう支援している。食事はユニット内で摂り、食べ方、座り方などをその都度教えている。高校生は企業からホテルの食事の招待があり、コース料理の食べ方やマナーを学んでいる。男の子が多いため、夜中にお腹がすき、自分でチャーハンを作ったりして食べている子どももいる。炊飯器や洗濯機などの使い方は、子ども同士で教え合ったりしている。リビングケア・アフターケア委員会を中心に計画を立て、水道代などの支払い方、冠婚葬祭の時の対応、体調が悪いとき何科の病院に連絡するかなど、具体的なことを教え、自立した後に困らないようにしている。

(2) 食生活

①	A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですりながら食事できるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

ユニットの食事は、学校の出来事や行事のことなどが話題になり、楽しいコミュニケーションの場になっている。各自の食器は、入所時に自分の好きな物を選び、それぞれが自分のものとして大事にしている。各ユニットで話し合い、ユニット内で調理して食べることをとても楽しみにしている。自分たちで作ったものは、残さず大切に食べ、残菜はほとんど見られない。誕生日には、すまいる全員の子供から、メッセージを書いた誕生カードを冊子にしてもらっている。好きなメニューを厨房で作ってもらい、祝ってもらっている。また、楽しい行事があり、ハロウィンでは施設内のお菓子探し、仮装大会などをして、行事に合った料理を楽しんでいる。

(3) 衣生活

①	A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

職員と一緒に買い物に行き、自分の気に入った洋服を購入して、特に女の子はおしゃれを楽しんでいる。小さくなった衣服は、欲しいという子どもに着てもらっている。中・高校生は、自分から洗濯をやっている。シーツ類などは、職員が洗濯している。中・高校生の制服は、自分で購入して揃えている。七五三の祝い着などは、レンタルの衣服を利用している。

(4) 住生活

① A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	b
<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

ショートステイのユニットを含め6ユニットあり、1ユニットに6人の子どもが生活している。建物の清掃は業者に依頼し、幼児以外の各居室は各自が掃除している。居室は個室で、子どもたちは自分の好きなぬいぐるみを置き、ポスターなどを貼り、自分らしい居心地の良い空間を作っている。また、個人でシャンプーやリンス、化粧品などを購入して使っている。リビングはコミュニケーションや遊びの場であり、テレビを見たり、ゲームをしたり、宿題をやったりしている。

(5) 健康と安全

① A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

朝起きてこない、夜寝つきが悪い、顔色が悪いなど、個々の身体状況を把握するようにしている。また、学校に行きたくない、ユニット内で強い言葉が出てくるなど、心理面の健康状態も把握して、学校で何かあったのかなど、話を聞く体制を作っている。登校拒否する子どもはなく、子どもたちの健康状態は良好である。感染症予防のため、手洗いやうがいを励行している。現在、慢性疾患のある子どもはいない。年1回、内科医、歯科医の健康診断を行っている。

(6) 性に関する教育

① A16 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
--	---

<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

性に関する問題は、一人ひとりの子どもによって異なる背景があり、難しい問題と捉えている。小さい子どもには紙芝居を用いて、男の子と女の子の身体の違いや、触っていけないところなどを理解できるようにしている。思春期の子どもには、職員が一对一で話し合う場を設け、女の子には生理に関する理解を促している。年1～2回、外部講師を招き、職員研修を行っている。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A17 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけて出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

行動上の問題に対応する「緊急マニュアル」を整備している。リストカットや怪我防止などのため、ユニット内の包丁などの刃物は、職員室の鍵のかかるところで保管している。不適応行動が起きた時には、職員は高圧的にならないよう、子どもの話を聴き、今の気持ちを理解するようにしている。時には無断外出があり、遠方まで行ってしまい、職員が根気よく探し回ることもある。施設に戻ってからは、一对一で向き合い、なぜ無断外出をする気持ちになったのかを聴きながら、子どもの気持ちに寄り添い、ここでの生活が納得できるよう時間をかけて話し合っている。一人ひとり抱えている背景が異なり、それぞれの子どもに合った対応を行っている。時には、児童相談所や警察などの協力を得ながら対応している。

②	A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども間での性的加害・被害を把握し適切に対応している。	<input type="radio"/>

【コメント】

特別支援学級に通っている子どもも数名いる。行動が遅かったりすると、他の子どもから早くと言われたり、支援級だからと言われることがあり、職員が適切に対応するよう心掛けている。小学校低学年の子どもと中・高校生では、体力差があるので、暴力などが起きないように職員が必ず中に入り、話を聞くようにしている。職員は、子どもの表情や、何気なく呟いた言葉をしっかり受け止め、最近疲れていないか確認し、気分転換をすすめたりして、ストレスをためないように気を付けている。

(8) 心理的ケア

①	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
---	-----------------------------------	---

<input type="checkbox"/>	心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

常勤の公認心理師を2名配置している。子どもたちには、個々に曜日や時間を決めプレイセラピーなどを行い、子どもたちがどのような気持ちでいるのか確認している。心理室には、ボールプールなどがあり、その中で行動から家ではどのような状態で生活している、どのような行動が見られたかなど、子どもの今の気持ちを理解するようにしている。子どもたちの気持ちを理解し、どう対応していくか、ユニット会議では心理士からアドバイスをもらっている。困難事例も多く、月1回、市内児童福祉施設の心理士のスーパーバイズを受けている。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

元教員だった職員の学習支援員が、幼稚園児には遊びながらのひらがなの指導、支援級の子どもたちには文章の作り方などを指導している。子どもに合った漢字や算数のドリルを作成し、ユニット内でできるよう支援している。受験を控えた中・高校生の勉強の進捗状況なども確認している。学校の宿題や忘れ物などがないように、忘れやすい子どもはチェック表を作り、必ず自分でチェックをして、職員に確認してもらい、忘れ物防止を行っている。学習以外では、ダンスやスイミングの発表会や大会など、頑張っている子どももおり、すまいる全体で応援している。

②	A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
<input type="checkbox"/>	進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	<input type="radio"/>

【コメント】

中学生になると、将来について職員と話し合うことが多くなる。どんな仕事につきたいか、そのためにはどのような勉強が必要かなど、職員からの情報やアドバイスを受け、高校や大学、就職など、自分で目標を立てて生活している。現在は、高校受験を希望し塾に通っている子どもや、大学を希望している子どもたちが、目標に向かって生活を送っている。就職希望者は、企業での体験を通じて、自分の将来を決めている。

③	A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	<input type="radio"/>

【コメント】

卒園後の自立を目指し、子どもたちは高校生になるとアルバイトを始めて貯蓄をしている。アルバイト先は、コンビニエンスストアやラーメン店など、さまざまである。高校生は、部活やアルバイトで忙しい日々を送る中で、生活面、金銭面、社会生活面での経験を積んでいる。支援学校の実習などで職場体験を行っているが、就職が決まると、児童相談所と連携して、どこから通うのが一番良いか一緒に考えている。就職後に様々な課題が起き、すぐに辞めてしまったりすることもある。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	<input type="radio"/>

【コメント】

児童相談所と連携を取りながら、子どもと家族との関係作りに努めている。家族に何か買ってもらったりすることもあり、家族と交流のない子どもは、職員に「○○ちゃんは○○を買ってもらったみたい」など、寂しそうに訴えることもある。そのような子どもには個別外出の機会を設け、食事をしたりして、子どもの心の寂しさを埋めていく支援を行っている。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

家庭への引き取りは、児童相談所と連携し、保護者の子育ての意識と子どもが家に帰りたいという気持ちが整った時に行っている。すまいるでは、18歳の卒園時や小学校卒業時などの節目に、子どもの負担のない状態を見て家庭引き取りを促している。今年度も、2名ほど調整中である。家庭引き取りの際は、面会や外出、家族交流室での生活の練習、1日自宅宿泊、1週間宿泊などを経て、引き取りにつなげている。保護者の状態や子どもの状態を、児童相談所のケースワーカーと確認しながら、どちらにも問題がなければ、家庭引き取りにつなげている。